

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑭

- 女性 / 23歳
- 職業/年次： 院生(理 M1)
- 居住エリア： 文京区
- 居住形態： 実家暮らし
- 奨学金： なし
- 2026年 GWの計画： なし（日帰りイベント）
- 2026年 夏休みの計画： 海外：台湾（LCC活用）/予算 12～13万

<結果サマリー>

研究室中心の日常を離れ、未知の環境で自らの判断を積み重ねるプロセスによって「自分の力だけで外の世界へアクセスできる確信」を得る体験

1. 導入

根拠： 文京区の実家から世田谷の大学院へ通い、平日は「朝から晩まで研究室にこもっている」生活を送る。物価高を実感し、週末の作り置き弁当で食費を「月3万円以内」に抑えるなど、徹底した節約を日常としている。

推論： 研究活動という「決められたルール」や「無機質な空間」に拘束される日々の中で、自立した生活感覚が希薄になることへの危機感を持っている。節約は単なる困窮ゆえではなく、限られたリソースを自らの意思で再分配するための手段として機能している。

FD： 日常生活を、将来のための準備と「システムへの適応」の時間と捉えており、その閉塞感を打破するための出口として、外部世界への接触を求めている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠： GWは「高いし混んでいる」ため宿泊を避け、日帰りの音楽イベントに絞る。「夏に海外へ行くための、GWの節約」と位置づけ、夏休みはLCCやホテルを自ら調べ、12～13万円の予算で台湾旅行を計画している。

推論： 全ての余暇を平均的に充実させるのではなく、一点にリソースを集中させることで「非日常」の質を確保しようとしている。円安等の外部環境を「今はこれが普通」と受け入れつつ、その制約下で自分が行ける「最大」のラインを模索している。

FD： 旅行を単なる娯楽ではなく、予算管理と情報収集によって「今の自分に手が届く範囲」を確定させる、一種のプロジェクトとして遂行している。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠： 旅行を「生存確認」や「自分の足で境界線を越える」行為と表現する。デジタル旅行では「五感で納得できない」とし、ガイドブックに頼らず「自分の鼻と直感」で店を決めるような、主体性が試される体験を重視している。

推論： 管理された研究生生活において、自身の「主体性」が摩耗することに不安を感じている。不自由が伴うリアルな移動を通じて、自分が「一人の独立した人間」として世界と対峙している事実を確認しようとしている。

FD： 旅行の核心は、未知の環境で自らの判断を積み重ねるプロセスにあり、それは社会に出る前に「自分の力だけで外側にアクセスできる確信」を得るための不可欠な経験となっている。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠： 塾講師やRAの手当から少しずつ「旅行積立」を行い、移動を「単なる移動」と割り切って費用を削る一方で、現地での体験には予算を回す配分を行っている。年12~13万円の予算捻出は、日々の食費を切り詰める彼女にとって非常に「思い切った」決断である。

推論： 彼女にとっての旅行は、研究室での地味な作業が続く毎日の中で、「何のために頑張っているのか分からなくなりそう」な自分を繋ぎ止めるための生存戦略である。将来の学費返済を見据えつつも、今しかできない「実績」を作るために、日常を削ってでも特定の一点にリソースを全投下している。

FD： 制約だらけの現実を「冷めた目」で分析しつつ、その中で主体性を失わないために「選択と集中」を貫く行動原理が見て取れる。それは、お膳立てされた消費ではなく、自分の判断で「特別な時間」を買い取り、自己の存在証明を試みる切実なプロセスである。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みをどのように過ごされているかなど、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。リラックスしてお答えいただければ幸いです。

まずは、今どのような毎日を過ごされているか、簡単に教えていただけますか？

【対象者】 あ、よろしくお願いします。えっと、今は都内の大学院で理系の修士1年をしています。毎日の生活は……そうですね、基本的には平日は朝から晩まで研究室にこもっていることが多いです。文京区の実家から通っているのですが、移動時間はそれなりにあるんですけど、実験が始まると遅くなることもあって。生活の軸は完全に研究室ですね。

【インタビュアー】 研究室での時間が生活の軸とのことですが、そうすると「お休みの日」はどのように過ごされていることが多いのでしょうか？

【対象者】 休みの日も、結局データ整理とかでPCを触っていることが多いんですけど……あ、でも最近は「意識的に外に出る」ようにはしています。ずっと研究室の無機質な空間にいたので。具体的には、近場の美術館に行ったり、静かなカフェで本を読んだり。あとは、学部の頃からの友人とたまに会って、美味しいものを食べに行くくらいですね。

【インタビュアー】 「意識的に外に出る」という言葉がありましたが、最近の生活の中で何かご自身の中で「ハマっていること」や、これにお金や時間を使っているな、と感じることはありますか？

【対象者】 ハマっていること……。あ、自炊というか、お弁当作りには少し凝っています。といっても、節約の意味が強いですけど（苦笑）。物価が本当に上がったなって実感することが多くて。学食も高くなりましたし。だから、週末に作り置きをして、平日の食費を浮かせる工夫をするのが、半分趣味で半分義務みたいな感じになっています。あとは、たまの贅沢として、ちょっといいコーヒー豆を買って淹れるのが、唯一の癒やしですかね。

【インタビュアー】 ご家族についても少し伺いたいののですが、今はどなたと同居されているのでしょうか。また、大学院の場所や、そこでどのような研究をされているのかも具体的に教えていただけますか？

【対象者】 家族は、父と母、それから大学生の弟との4人暮らしです。

大学は世田谷の方にあるので、文京区の自宅からだトドア・トゥ・ドアで1時間ちょっとくらいかかりますね。学部は理工学部で、今はそのまま大学院の理学研究科の修士課程にいます。研究テーマは……詳しく言うと難しくなっちゃうんですけど、有機化学の分野で、新しい触媒の合成反応について研究しています。基本的には、ずっとフラスコを振ったり、分析機器を回したりっていう地味な作業の繰り返しですね。

【インタビュアー】 世田谷まで1時間強かけて通いながら、化学の研究に打ち込まれているんですね。先ほど「物価高を実感してお弁当を作っている」とおっしゃっていましたが、今ご自身が自由に使えるお金、いわゆる「自由に動かせる予算」のようなものは、主にどのようなところから得ているのでしょうか？

【対象者】 今は、大学で「RA（リサーチ・アシスタント）」として教授の手伝いをして、月々いくらか手当をもらっているのと、あとは週に2回、近所の個別指導塾で講師のアルバイトをしています。そこまで大きな金額ではないですけど、実家なので家賃がかからない分、なんとかやりくりできている

感じですが、でも、最近は本当に外食一回するのも「あ、1,500円か……」って一瞬考えちゃうような感覚はありますね。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 ありがとうございます。日々の研究やアルバイトの様子、よく分かりました。さて、ここからは今年のお休みについて伺いたいのですが、まず間近に迫ったゴールデンウィーク、それから夏休みのご予定について、現時点で決まっていることがあれば教えていただけますか？

【対象者】 ゴールデンウィークは、特に泊まりでの旅行とかは予定していません。基本的には都内で、日帰りのイベントに1日だけ行く予定があるくらいですね。夏休みの方は、8月の後半に友達と3泊4日で台湾に行こうと計画していて、もう航空券は取りました。

【インタビュアー】 GWは都内での日帰り、夏休みは台湾ということですね。まず、GWに「泊まりの旅行をしない」というのは、何か理由があるのでしょうか？

【対象者】 うーん……。一番は、どこに行っても高いし混んでいるから、というのがあります。わざわざ高い時期に無理して行かなくてもいいかなって。それに、4月から修士1年になって研究のペースがまだ掴みきれていないので、あまり長く家を空けるのも不安というか。実家でゆっくりしつつ、日帰りで好きなイベントに1日だけ集中して、あとは研究室に顔を出すくらいがちょうどいいかなと思っています。

【インタビュアー】 「高いし混んでいるから」というお話でしたが、日帰りのイベントというのは、具体的にどのようなものに行かれる予定ですか？

【対象者】 幕張の方で開催される、音楽系のフェス形式のイベントです。それもチケット代だけで1万5,000円くらいしますし、会場での飲食とかグッズ代を考えると、1日で3万円近くは飛んでいく計算なんです。そう考えると、GWにさらに宿泊を伴う旅行を入れるのは、今の自分の経済状況だとちょっと現実的じゃないな、と。

【インタビュアー】 1日で3万円という出費を考えると、宿泊旅行は現実的ではない、という判断なのですね。では、夏休みの台湾について詳しく伺いたいのですが、3泊4日の具体的な中身はどのような計画ですか？交通手段や宿など、決まっている範囲で教えてください。

【対象者】 交通手段は、成田発のLCCを予約しました。宿は、台北市内の、いわゆる「デザイナーズホテル」みたいなところですね。個室じゃなくて、ドミトリーに毛が生えたくらいの、でも清潔感があって評価が高いところを友達が見つけてくれて。アクティビティは、九份とかの定番の観光地も少しは行きますけど、基本的には「食べ歩き」がメインになると思います。

【インタビュアー】 成田からのLCCと、台北のホテルですね。その「LCC」や「ホテル」という選択は、どのような理由やこだわりで決められたのでしょうか？

【対象者】 こだわり……というよりは、消去法に近いかもしれません。本当は、もっと時間の融通が利くフルサービス（レガシーキャリア）の方が楽なんですけど、今の燃油サーチャージとか円安を考えると、普通に10万円を超えちゃうじゃないですか。台湾なのに。LCCなら、受託手荷物の制限とかは厳しいですけど、そこを我慢すれば航空券代を半分くらいに抑えられる。宿も同じで、寝るだけなら清潔であればいいよね、って友達と話して。その分、現地で食べるものとか、お土産に回したい

んです。

【インタビュアー】 夏休みの台湾旅行、LCC やホテルを駆使して「食べ歩き」に予算を回すという優先順位がはっきりされていますね。その予算面についてももう少し詳しく伺いたいのですが、今回の台湾旅行全体で、だいたいどのくらいの費用を見込んでいますか？ また、そのお金は普段の生活費と比べて、ご自身の中でどう位置づけて準備されているのでしょうか。

【対象者】 航空券が燃油込みで5万ちょっと、宿が3泊で1万5,000円くらい。現地での食費や交通費、お土産で5~6万は使うと思うので……トータルで12~13万円くらいかな、と見積もっています。このお金は、毎月の塾のバイト代から少しずつ「旅行積立」みたいに避けておいたものです。普段の生活費は、お弁当を作ったりして月3万円以内に収めるようにカツカツでやってますが、旅行は別枠というか。研究室にこもる毎日なので、こういう「外の世界に出る機会」にお金を使わないと、何のために頑張っているのか分からなくなりそうで。

【インタビュアー】 「何のために頑張っているのか分からなくなりそう」という言葉、印象的です。その12~13万円という予算を組むにあたって、本当はやりたかったけれど「今回は我慢した」「諦めた」という具体的なことはありますか？

【対象者】 本当は……九份に泊まりたかったんです。夜景が綺麗だし、ゆっくりお茶を飲んだりして過ごしたかったんですけど、あそこの宿ってやっぱり高いんですよ。今の円安だと、一泊するだけで予算が跳ね上がっちゃう。友達とも相談して「今回は台北を拠点にして、バスで往復すれば安く済むよね」って。あと、本当は免税店でブランドの化粧品とかも見たかったんですけど、今のレートで見ると日本で買うのと変わらないか、むしろ高い。だから「買い物」は最初から選択肢から外しました。

【インタビュアー】 宿泊地や買い物を削って、現地の体験に絞ったのですよね。ところで、先ほど「GWは高いし混むから日帰り」とおっしゃっていましたが、GWと夏休みの予算のバランスについては、最初から「夏に集中させる」と決めていたのでしょうか？

【対象者】 そうですね。今の物価だと、両方の連休で贅沢するのは私の収入じゃ絶対無理です。GWに下手に国内旅行をすると、新幹線代と宿泊代だけで5~6万はすぐ飛んじゃうじゃないですか。それなら、GWは1日のイベントに全力投球して、残りの休みは研究室に行って実験を進めちゃったほうが、夏休みに後ろめたさなく海外に行けるかなって。自分の中では「夏に海外へ行くための、GWの節約」という感覚が強いです。

【インタビュアー】 「夏のためのGWの節約」ですね。去年の2025年のお休みの過ごし方と比べて、今年「意識的に変えたこと」や、状況的に「変えざるを得なかったこと」は何かありますか？

【対象者】 去年はまだ学部生で、親も少しは援助してくれていたんですけど、院に入ってから「自分の遊びは自分で」という空気になったのが大きいです。あと、去年より明らかに「円安」と「物価高」の影響がキツイと感じます。去年なら「せっかく海外に行くなら、レガシー（JALやANA）で行こうよ」って話になっていたと思うんです。でも今年は、友達との最初の会話が「どこのLCCが一番安いかな」でした。移動手段を「快適さ」じゃなくて「単なる移動」と割り切らざるを得なくなったのは、去年との大きな違いですね。

【インタビュアー】 「移動を割り切らざるを得なくなった」とのことですが、その「割り切り」に対して、ご自身の中でストレスや抵抗感のようなものはありますか？

【対象者】 最初はありました。せっかくの旅行なのに、成田まで遠いし、座席は狭いし、荷物の重さを

数キロ単位で気にしなきゃいけないなんて……って。でも、SNS とかで見てみると、同じ世代の子たちがみんなそうやって工夫して海外に行っているのを目にするので。「今はこれが普通なんだな」って自分に言い聞かせている部分があります。 というか、そうまですないと、もう 20 代が海外に行くのは無理な時代なんだなって、どこか諦めに近い感覚もありますね。

【インタビューアー】 「そうまですないと海外に行くのは無理な時代」という実感があるのですね。 その「無理な時代」において、それでも「台湾」という海外を選んだのはなぜなのでしょう。国内旅行でもう少しゆったり過ごす、という選択肢はなかったのですか？

【対象者】 国内……北海道とか沖縄も考えたんですけど、結局、今の国内旅行ってホテル代がインバウンド価格ですごく上がっているじゃないですか。ビジネスホテルでも 1泊2万円とか。それなら、LCC を使って少しでも「非日常」を感じられる海外に行ったほうが、コスパ……というか、心理的な満足度が高い気がしたんです。日本語が通じない場所に行って、全然違う文化に触れる。その「遠くに来た」という感覚が、今の私には研究生生活を続けるための燃料として必要なんです。

【インタビューアー】 「遠くに来た」という実感が研究生生活の燃料になる、というお話、よくわかります。ただ、最近是他にも LCC が飛んでいて、もっと安く行けそうなアジアの都市……例えば韓国や、時期によってはベトナムなどもあるかと思うのですが、その中で今回「台湾」を選ばれた決め手は何だったのでしょうか？

【対象者】 あー、確かに韓国ならもっと安かったかもしれないですね。でも、私の中では韓国だと「近すぎて日常の延長線上」な感じがしちゃうんです。週末にサッと行くならいいんですけど、せっかく夏休みに 3泊4日で行くなら、もう少し「異国感」が欲しくて。 かと行って、ベトナムとかタイまで行こうとすると、飛行機に乗っている時間が長くなるじゃないですか。LCC の狭い座席で5時間も6時間も耐えるのは、今の私にはちょっと……「修行」みたいに感じちゃって（苦笑）。

【インタビューアー】 「近すぎず、遠すぎず」という距離感でしょうか。

【対象者】 そうです。台湾なら 3 時間ちょっとで着くから、LCC でもギリギリ耐えられる。それに、台湾って漢字だからなんとなく安心感があるけど、街の匂いとか湿度は日本と全然違って、「あ、違うところに来た」って強く実感できるんですよ。 あと、今のレートでも、台湾ならまだ「1食数千円出せば、日本では食べられないような贅沢な気分が味わえる」っていう実感が持てる気がして。タイだと移動にお金がかかる分、現地での食費を削らなきゃいけなくなりそうだったので、最終的に「移動」と「現地での体験」のバランスが一番マシなのが台湾だった、という感じです。

【インタビューアー】 移動の耐性と、現地での食費のバランスを計算されたのですね。 ちなみに、その「台湾旅行」にかかる 12~13 万円という金額ですが、今の生活費の基準からして、ご自身の中で「思い切った」金額なのか、それとも「このくらいは当然出すべき」という感覚なのか、どちらに近いのですか？

【対象者】 ……正直、めちゃくちゃ「思い切った」金額です。 だって、月3万円で食費を切り詰めている身からしたら、4ヶ月分の生活費が一気に消えるわけですから。でも、そうやって「何かを極端に我慢して、一点に集中させる」というやり方をしないと、もう何も手に入らない感覚があるんです。全部を並行して充実させるのは無理だから、普段は徹底的に「無」で過ごして、年に一度だけ「海外」というラベルのついた特別な時間を買う。 そうしないと、20代の思い出が「研究室のフラスコ」だけで終わっちゃう気がして。それが一番怖いんだと思います。

【インタビューー】 「食費は月 3 万円」というお話について、もう少し具体的に内訳を伺いたいのですが、それはご実家に入れているお金のことでしょうか。それとも、ご自身が外で食べるランチ代やカフェ代といった経費のことですか？あわせて、学費や、服などの被服費、スマートフォンの通信費といった支出をどう分担されているのかも教えていただけますか。

【対象者】 あ、3万円というのは、あくまで私個人が外で使う「食費」ですね。ランチ代とか、研究室の合間に買う飲み物、たまの友達との外食です。実家には、今は特にお金は入れていなくて……甘えている自覚はあるんですけど、その分、学費は自分で日本学生支援機構の給付型と、あとは親に一部立て替えてもらっている分があって、将来的に自分で少しずつ返す約束になっています。

被服費や交際費、通信費も基本的には自分のバイト代と RA の手当の中から出しています。スマホ代は月々5,000円くらいに抑えていますし、服も最近はほとんど買わなくなりました。買うとしても ZOZO のセールとかメルカリとか。研究室にいと、どうせ白衣を着ちゃうので「ちゃんとした服」が必要ないっていうのもあるんですけど（笑）。

【インタビューー】 なるほど。学費を見据えつつ、固定費や被服費を削ってやりくりされているんですね。そうすると、先ほどの「台湾旅行の 12~13 万円」というのは、そうした徹底した切り詰めの中で捻出した、本当に特別な予算なのだと改めて感じます。

【インタビューー】 台湾旅行はお友達と、というお話でしたが、お二人で行かれるのでしょうか？また、今回「台湾に行こう」と言い出したのは、あなたとご友人のどちらだったのですか？

【対象者】 はい、大学の学部時代から仲の良い子と二人で行きます。言い出したのは、私の方ですね。去年の冬くらいに、研究室の実験が立て込んで本当に精神的にキツかった時期があって……。 「どこか遠くに行かないとやってられない！」ってなって、彼女に「夏休みにどこか海外行かない？」って連絡したのがきっかけです。

【インタビューー】 あなたから誘われたのですね。行き先として台湾を選んだ際、ご友人の反応はどうでしたか？

【対象者】 彼女も、最初は「円安だし、海外は無理じゃない？」って渋っていたんです。でも、私が LCC のサイトを見せて、「今の時期に予約すればこの値段でいけるよ」とか、「宿をここ（ホステル）にすれば、国内旅行とそんなに変わらない予算で行ける」って、具体的な数字を出してプレゼンしました（笑）。

そうしたら、「それなら行けるかも」って納得してくれて。彼女も社会人 1 年目でお金に余裕があるわけじゃないので、お互いに「とにかく安く、でも海外の空気は吸いたい」という利害が一致した感じでした。

【インタビューー】 ご自身で具体的な数字を調べてプレゼンされたのですね。そこまでして「海外」にこだわったのは、やはり先ほどおっしゃっていた「研究室以外の世界との繋がり」を確認したかったから、ということでしょうか。

【対象者】 そうですね。あとは……意地みたいなものもあるかもしれません。「お金がないから海外を諦める」のが当たり前になっちゃうと、自分の人生がどんどん「我慢」だけで構成されていく気がして。たとえ LCC でも、ドミトリーでも、自分の力で海外に行くという「実績」を作っておかないと、この先、何に対しても「今は無理だから」と言い訳して動けなくなっちゃいそうで。それが自分でも怖かったんだと思います。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】「今の自分に手が届く範囲の最大」として台湾を選び、ご友人にも具体的にプレゼンしてまで「海外という実績」を作ろうとされているお話、非常に重みを感じました。そうした今の計画とは別に、もし予算や時間の制約が一切なかったとしたら、「今後やってみたい旅行」として思い描く理想はありますか？

【対象者】理想……そうですね、いつかはお金や時間を一切気にせずに、北欧とかに行ってみたいです。オーロラを見たり、現地のデザインに触れたり。でも、今の円安と自分の貯金額を考えると、それは「いつか働いて、もっと余裕ができてから」の、ずっと先の夢だになって、今は切り離して考えています。今はとにかく、LCCでも何でもいいから「今行ける場所」を確保することに必死なので。

【インタビュアー】北欧のような遠い場所は「将来の夢」として切り離しているのですね。一方で、最近「青春18きっぷ」のように時間をかけて国内を回るスタイルや、あるいはYouTubeやVRで現地の映像を楽しむ「デジタル旅行」といったものもあります。こうした楽しみ方については、どう思われますか？

【対象者】「青春18きっぷ」は、私にはちょっとハードルが高いです。時間はかかるし、移動そのものが目的になっちゃう感じがして。今の私にとっては、旅行は「日常（研究室）からいかに遠くへ、効率よく脱出するか」が大事なので、移動に何日もかける余裕はないかな……。

デジタル旅行については、動画はよく見ます。Vlogとか、現地のスーパーを歩いているだけの動画とか。それで情報収集もしますし、楽しいんですけど、私の中では「行った気になる」と「実際に行く」のは、180度違います。

【インタビュアー】「180度違う」というのは、具体的にどのような感覚の差なのでしょう。

【対象者】映像だと、現地の気温も、街の変な匂いも、足の疲れも感じられないじゃないですか。理系のせいかな、やっぱり自分の体で体験して、データを取るじゃないですけど、「そこにいた」という事実が欲しいんだと思います。デジタルはあくまで「カタログ」であって、「商品」そのものではないというか。自分の五感で納得しないと、それは私の人生の「経験」にはカウントされない気がするんです。

【インタビュアー】「五感で納得しないと経験にカウントされない」というお話、よく分かります。では、そうした実体験を重視される中で、改めて伺いたいのですが、あなたにとって「旅行」という行為は、人生や生活の中でどのような意味を持つものだと捉えていますか？

【対象者】……「生存確認」に近いかもしれません。研究室と実家の往復だけだと、どうしても自分の世界がどんどん狭くなって、窒息しそうになるんです。SNSを開けば誰かが楽しそうにしているのが勝手に入ってくるし。自分だけが取り残されているような感覚になるというか。私にとって旅行は、単なる「遊び」じゃなくて、自分の世界がまだ外に繋がっていること、そして自分の力でその外側にアクセスできることを確認するための、一種の儀式みたいなものだと思います。

【インタビュアー】「自分の力で外側にアクセスできることを確認する儀式」ですね。今後、さらに物価が上がったり、将来的に社会保険料の負担が増えたりといった経済的な制約が強まっていくこと

が予想されます。そうした中で、あなたの「旅行」はどうなっていくと思いますか？「こうしたい」という願いと、現実はどうなりそうか、両方の観点から教えてください。

【対象者】 「こうしたい」という要望で言えば、本当はもっと優雅に、宿のランクも気にせずに、その土地の歴史とかをじっくり味わう旅がしたいです。でも現実……回数は確実に減るでしょうし、内容もどんどん「削ぎ落とす」方向になると思います。さらに安いLCC、さらに安いドミトリー。場合によっては、友達と行くのも贅沢になって、一人で格安プランを組むことが増えるかもしれません。

【インタビュアー】 そうした「削ぎ落とす」方向に向かう現実を、ご自身としてはどのように捉えていますか？

【対象者】 正直、しんどいなとは思いますが。せっかく働いたり勉強したりしているのに、なんでこんなに必死に削らないと「非日常」すら手に入らないんだろうって。でも、諦めたらそこで終わりだとも思っています。制約があるからこそ、その中でどうやって「最大」を叩き出すか。それが今の20代のスタンダードなのかなって、どこか冷めた目で見ている自分もいますね。

【インタビュアー】 制約の中で「最大」を叩き出すことがスタンダード、とのことですが、どんなに状況が厳しくなっても、これだけは譲れない、これだけはやりたいと思う「旅行の要素」はありますか？

【対象者】 「一人で自由に歩ける時間」……これだけは譲れません。たとえ友達で行ったとしても、1時間でもいいから一人で知らない街の路地に入ってみたり、現地のスーパーをじっくり眺めたり。誰にも気を遣わずに、自分の感覚だけでその土地を消化する時間。それがないと、結局「誰かが作ったパッケージ」をなぞっただけで終わっちゃう気がして。自分で選んで、自分の足で歩いて、その土地の空気を吸う。その「主体性」みたいなものが、私にとっての旅行の最後の砦なんだと思います。

【インタビュアー】 先ほどおっしゃっていた「自分の力で外側にアクセスできることを確認する」という点について、もう少しご自身の言葉で具体的に教えていただけますか？

【対象者】 ……なんて言うか、「自分の足で境界線を越える」感覚、でしょうか。普段、研究室にいると、どうしても「誰かが用意した環境」とか「決められたルール」の上だけで思考が完結しちゃうんです。実家暮らしなのもあって、生活のベースも自分一人の力で成り立っているわけじゃない。

でも、海外旅行、特に今回みたいに自分でLCCを調べて、安い宿を確保して、知らない土地の公共交通機関を乗り継いで……っていうプロセスは、全部自分の判断じゃないですか。言葉が通じない場所で、自分の意思で動いて、自分の力で目的地にたどり着く。その時だけは、自分が「ただの研究室のパーツ」じゃなくて、一人の独立した人間として世界と対峙している実感があるんです。

【インタビュアー】 「一人の独立した人間として世界と対峙している実感」というお話でしたが、その実感は、日常生活の中では得がたいものなのではないでしょうか。

【対象者】 得がたいですね。今の日本って、どこに行ってもサービスが行き届いているし、スマホがあれば何でも完結しちゃうから、自分の「主体性」を試される場面がほとんどない気がして。特に私の場合、このまま院を出て就職して……ってなると、ますます「システムの中」に入り込んでいく感覚があるんです。だから、今のうちに「自分の力だけで、知らない世界にタッチできる」っていう確信を持っておきたいんだと思います。それができないまま社会に出るのが、どこか不安なのかもしれません。

【インタビュアー】 「自分の力だけで知らない世界にタッチできる確信」を求めている、とのことですが。その確信を得るために、今回の台湾旅行で「これだけは自分の力でやり遂げたい」と思っている

具体的なアクションはありますか？

【対象者】 あ、それは「現地の人しかいないような、ガイドブックに載っていない食堂に一人で入って注文する」ことです。友達と一緒にですけど、そこだけは別行動でもいいかなって。Google マップとかに頼りすぎず、自分の鼻と直感で「あ、ここ美味しそう」って店を決めて、なんとか意思疎通して食事をする。そんな些細なことですけど、それができた時に初めて「私はこの街にちゃんと存在している」って思える気がするんです。誰かがお膳立てした体験をなぞるだけじゃ、わざわざ高いお金を払って海外に行く意味がないって思っちゃいます。